

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500024		
法人名	株式会社M・C・C		
事業所名	グループホーム香雪		
所在地	周南市東一の井手750-8		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町受理日	平成26年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

受診は職員が送迎・付添を行い、日々の御様子や気になる事を主治医に伝えて連携を図っている。
また、看護師による健康管理を行い、利用者様の体調管理に努めている。
地域の自治会へ加入しており、地域行事への参加や慰問の受け入れを積極的に行っている。
毎年納涼祭や運動会、忘年会や素麺流しなど、季節に合わせた行事を行っている。また、花見やビアガーデン、カラオケなどの外出行事も取り入れ、利用者様や御家族からもご好評を頂いている。
毎月の請求時に行事案内、行事写真、生活記録簿、日々の御様子をお知らせする手紙などを同封しており、普段なかなか面会出来ない御家族からもご好評の声を頂いている。
居室の空間センサーや死角を補うミラーを設置し、転倒・事故防止に努めている。
トイレや脱衣所に前傾姿勢支持バーを設置。浴室の安全回転盤など、機能低下を補う工夫を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

内部研修は認知症ケアの研修と一般研修の2つに分けて年間計画を立てておられ、月1回テーマを決められ管理者が講師となって実施しておられます。職員一人ひとりが6ヶ月毎の目標達成計画を立てておられ、各ユニットの主任と管理者に提出され、個人面談時に見直しや評価をしておられ、職員が目標を持って働きながら学べる様に取り組んでおられ、一人ひとりのレベルアップにつなげておられます。家族会を年2回開催しておられ、できるだけ多くの家族が参加されるように日程を調整され、入院と延命についてや事業所での看取り、面会と帰宅願望の関係についてなど、家族会主導で話し合わせ、情報交換しておられ、事業所と家族が一緒に本人を支えていくための協力関係を築く場として交流を図っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット出入口に事業所理念を掲示して全職員に周知を図ると共に、毎年3月に全体会議にて理念の見直しを行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を事業所内に掲示し、年度末に全体会議で理念の見直しを行い、共有して、理念を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、清掃活動や祭りなどにも参加させていただいている。また地域のボランティアや慰問などの来訪もあり、地域との交流を継続している。	自治会に加入し、職員は清掃活動に参加し、利用者は文化祭や祭りに参加している。演劇ボランティアや保育園児の訪問、中学生の体験学習や高校生の実習を引き受けるなど、地域との交流の機会を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の御家族や近隣の方々に対し、これまでの経験や学習・研修で得た理解や支援の方法を発信している。また介護無料相談のチラシを作成し、介護に関する相談を受け付けている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組み、改善に役立てている。結果については職員は勿論、御家族へお知らせしており、運営推進会議でも出席者へ報告を行っている。	職員は自己評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。項目毎に担当職員を決めてその職員を中心に話し合い、主任と管理者がまとめている。評価結果は全体会議で話し合い、運営推進会議で報告し、家族に送付している。職員の自己目標達成計画に活かしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営状況や現場の取り組み、ヒヤリハットなどの報告を行っている。また広く御意見を伺い、全体会議等で職員へ周知し、検討を行って以降のサービス向上に生かしている。	2ヶ月に1回開催し、運営状況や利用者の状況、活動報告、行事の説明、事故報告等をして意見交換している。意見は全体会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員には運営推進会議へ御参加頂いており、その都度御意見・御助言を頂いている。またこちらから電話を掛けたり直接役所へ出向くなどして質問したり、御返答・御助言を頂いている。	市担当課とは運営推進会議の他、電話や直接出向いて取り組みを伝えたり、相談して助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において、事例を引用しながら指定基準について学んだり、外部研修に参加することで、職員全体が指定基準を正しく理解できるよう努め、安易な身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	内部研修や外部研修で学び、職員は理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修において、定期的に学ぶ機会を設けており、職員間で共通認識を持って虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている方もおられる。内部研修において学ぶ機会を設け、制度について理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解を得ている。改定等の際は書面にて説明を行い、その都度同意書を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、周知と共に常にご意見・ご要望を受け付けられる体制を整えている。定期的に家族会を開催してご意見を伺い、御家族の想いを全体会議にて周知・検討している。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、周知している。運営推進会議時や面会時、電話、年2回の家族会開催時などで意見や要望を聞いている。家族会で、延命や看取り、面会と帰宅願望の関係について話し合っているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個別面談など意見や提案を聞く機会を設けている。申し送りノートを常設し、自由に意見を書き込めるようにしている。意見や提案はその都度検討、個別の返答や全体への提案・周知を行っている。	管理者は全体会議や年2回の個別面接で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、「申し送りノート」に自由に書けるようにしている。就業時間の見直しの提案があり、全体会議で話し合っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の自己目標の達成状況や勤務状況をふまえ、定期的に評価・昇給を行っている。また不安や悩みなどの相談を受け、その解消と共に働きやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自で設定した自己評価の達成状況と勤務状況の評価し、個々の力量の把握に努めている。また外部研修への参加を促したり、内部研修を実施してケアの質の向上に努めている。	外部研修は、経験や希望に応じて参加の機会を提供している。内部研修は認知症研修と一般研修に分けて年間計画を立て、月1回テーマを決めて、管理者が講師となって実施している。職員一人ひとりが自己目標達成計画を設定し、6ヶ月毎に達成状況を確認し、働きながら学べる様に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、合同研修会等へ参加している。また、近郊のグループホームと運営推進会議に相互に参加し合うなどの交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にて直接想いをお聞きすると共に、こちらの都合にあてはめるのではなく、御家族の協力を得ながら徐々に施設での生活に馴染んでいけるように配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談にて直接、心配に思われていることやご要望をお尋ねし、共感してひとつずつ丁寧に説明することで不安の解消に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状把握・評価を行い、必要なサービス内容を検討している。また状況に応じてグループホーム以外の福祉・医療機関についての説明も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・趣味等、日常生活においてしたい事・できる事を一緒に行っている。して頂いたことに対しては感謝の気持ちを伝えるようにしている。実際にこちらが教わることも多い。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて状況の説明を行い、ご協力を頂いている。面会時間は特に設定せず、気軽に起こし頂けるよう配慮している。また忘年会等の行事開催を事前にお知らせ・お誘いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人のお気持ち・ご要望を第一に御家族と調整を行い、帰宅や外出を支援している。また個人のプライバシーには配慮しつつ、御友人等気軽に御面会頂けるよう支援している。	趣味の会への出席、知人や元の職場の同僚、教え子などの来訪、家族の協力を得て外出や外泊、結婚式や法事への出席、墓参りなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように関係継続の支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	運動会や忘年会等の親睦行事を企画し、一緒に楽しめるよう支援している。また利用者間の関係性を把握し、席の位置や関わり方に配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の理由により契約が終了する場合、退院後の受け入れ先の紹介や再入居の相談を行っている。またご要望に応じて契約終了後も個別相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接要望があった場合は勿論、日々の関わりの中での言動や表情から想いを汲み取り、支援を行っている。またこれまでの生活歴や御家族からの聞き取りをふまえてケアカンファレンスを行っている。	アセスメントの他、日々の言動や表情から思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、御友人からお聞きしたことをふまえて、これまでの暮らしの把握に努めている。また以前のサービス提供事業所より情報提供を受け、より御本人を理解するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケアカンファレンスを行い、一人ひとりの現状を正確に評価するように努めている。また集団生活に当てはめず、御自身のペースでその人らしく生活ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御自身・御家族のご要望や現状把握、主治医の意見を基に、看護師を含めたケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	本人や家族の意見、かかりつけ医の意見を参考にしてケアカンファレンスを行い、看護師や職員で話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3ヶ月に1回見直して、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成。職員間で情報共有を行うと共に課題を抽出し、ケアカンファレンスを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は基本的に事業所で送迎・付添いを行い、買い物などの個別のご要望にはその都度対応を行っている。また御家族が遠方等の事情を考慮し、入院中の洗濯や買い物などにも対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の演劇ボランティアや園児の慰問などがあり、皆様からも喜ばれている。また恒例の忘年会や運動会などでは、余興や競技への積極的な参加もあり、御本人は勿論御家族からもご好評頂いている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医からは理解と協力を得ており、連携により早期受診・早期回復への取り組みを行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、受診の支援をしている。緊急時にはかかりつけ医に連絡し、事業所の看護職と連携して対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。年2回、訪問歯科診療による口腔ケアを実施している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは日中・夜間問わず、常に連絡が取れる体制を整えており、特変時などに適切な対応が行えるようにしている。また情報を共有し、必要に応じて受診等の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供書の提供と説明を相互に行い、継続した支援を行っている。また入院中も面会や御家族・担当者への連絡を定期的に行い、早期退院に向けて情報交換・相談を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針と看取りへの方針を定めて入居時に説明、同意を得ている。また個々の現状をふまえてその都度御家族・かかりつけ医に報告・相談を行いながら、御家族の想いを大切に支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針と看取りへの方針」に基づいて、事業所でできる対応について契約時に家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有して、家族の思いを大切に支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告や事例等を活用し、原因究明と再発防止に努めている。また職員全員が個々の状態の把握・理解に努め、内部研修でも急変時の対応について学んでいる。自治会主催の救急救命講習への参加も行っている。	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、全職員に回覧して、全体会議で話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で事故防止と事故対応、リスクマネジメントの研修を実施している。救急救命の講習会に参加し、AEDの取り扱いや人工呼吸訓練を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、定期的に研修を行うと共に、消防署員立会いのもと避難訓練を行っている。その際には近隣住民にも協力を求め、ご参加頂いている。	防災マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練、消火器の使用訓練等を地域住民(3名)の参加を得て実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修でも定期的に学んでおり、接遇マナーを重視した言葉かけ・対応を行っている。また個人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないようさりげない支援を心掛けている。	職員は内部研修で人格の尊重やプライバシーの確保について研修し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけに気づいた時は職員同士で注意し合うように努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや日常生活における役割作りなど、御本人の想いを尊重した支援を行っている。また衣服や趣味など、個々の自己選択を尊重し、その人らしさが維持されるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の流れに当てはめず、個々の生活リズムを大切に支援を心掛けている。意思が上手く伝えられない場合は、その時の表情や言動から推測し、その人に寄り添った支援を心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の自己選択や化粧品の購入、希望者にはパーマやカラーリングなど、御本人が望むサービスを受けられるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や鍋、花見弁当や外食などを取り入れ、ご好評頂いている。またご希望に応じて調理や盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にやっている。	旬の食材を使って、三食とも事業所で調理している。利用者は、テーブル拭きや盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にしている他、たこ焼きづくりをする時に、材料を職員と一緒に混ぜたりしている。季節行事食(そうめん流し、雛あられや甘酒)、誕生日には利用者の希望を聞き、職員と1対1での外食を楽しんだり、以前住んでいた地域へドライブをしてケーキカフェへ立ち寄ったり、各ユニットごとに外出するときには、弁当を購入して戸外で食べるなど、いろいろ工夫して、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日トータルのカロリーや栄養バランスを設定し、食事量や水分摂取量を記録して情報を共有している。また自立度に応じて介助を行ったり、不足していれば必要に応じて追加摂取して頂いている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自身でできる方は見守り・確認を行い、難しい方は誘導・介助を行うなど、個別の支援を行っている。また年に2回訪問歯科による口腔内チェックと指導、不定期の診療をお願いしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導チェック表を活用し、それぞれの排泄パターンの把握に努めている。それにより適切な誘導や自立支援が行えており、現在ほぼ全員がトイレでの排泄を行えている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活に適度な運動を取り入れ、水分摂取量や状況把握をしながら個別に取り組んでいる。また医師や看護師と連携し、排便姿勢の工夫や服薬調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調に応じて入浴して頂いている。入浴時には手指の運動や歌、会話などでコミュニケーションを図り、入浴剤や柚子湯など、入浴を楽しめるような支援をしている。浴槽利用が困難な方は足湯を行っている。	毎日13時30分から16時30分頃までの間、体調や希望に合わせて、入浴が楽しめるように支援をしている。入浴剤やゆず湯を使ったり、タイミングを見図るなど、無理強いせず、利用者の体調や気持ちを大切に、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の生活リズムを把握し、支援している。また御希望に応じて休息して頂いており、定期的な巡視と室温・湿度の調節により、安心・快適にお休み頂けるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬情報を共有・把握している。薬は調剤薬局にて一包化し、名前等大きく表記して誤薬防止に努めている。また確実な飲み込みを確認し、症状の変化等を認めた場合は責任者へ報告を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前面談やその後の会話などから生活歴や趣味・意向を把握し、日々の役割作りや行事・カラオケなどの楽しみ事を通じて、張り合いのある生活が送れるよう支援している。	誕生会や七夕祭りの飾り付け、七夕祭り、納涼祭、そうめん流し、クリスマス会、忘年会で鍋を囲む、節分、雛祭り、将棋、童謡や唱歌、軍歌などを歌う、カラオケ、ボーリング、風船バレー、ラジオ体操、月1回の生け花教室、年4回の音楽セラピー、新聞の講読、お盆拭き、下膳、洗濯物たたみ、掃除など楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある生活が送れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人のその日の体調を考慮しつつ、御希望に応じて散歩や買い物等の支援を行っている。また御家族と連携を図り、外出支援や帰宅支援を行っている。	散歩や買い物、男性は魚釣り、季節の花見、徳山動物園、どんど焼き、初詣、家族の協力を得て、外出、外食、外泊、ドライブ(健康ランド)など、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて個別管理を行っているが、買い物等ご希望に応じて御本人が支払いを行えるよう支援している。また御家族から同意を頂いた上で、普段からいくらかを所持しておられる方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話や手紙のやりとりを支援している。その際は身体状況を勘案し、必要に応じて御家族から同意を頂いた上で、伝言や代筆等の支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、窓からの眺望も良い。雛飾りやクリスマスツリーなど、季節に合わせて飾り付けを行い、四季を感じて頂けるよう配慮している。温度・湿度計を設置し、年間を通じて快適にお過ごし頂けるよう心掛けている。	リビングは明るく、窓からの景色は自然の移り変わりを感じることができる。畳の間やソファ、机、椅子、テレビなどを配置し、利用者同士で思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。殺菌効果のある空気清浄器を置き感染症予防に努めている。壁面には季節の行事の写真を飾り、玄関や廊下の踊り場には季節の飾り付けがしており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに好まれる場所があり、思い思いに過ごされている。また個々の性格や相性を考慮して食卓の席を定め、心地よく過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や御家族からのプレゼントなど、自由に持ち込まれている。また御本人・御家族の要望に沿ってレイアウトの変更を行い、居心地よくお過ごし頂けるよう支援している。	テレビ、鏡、ハンガーラックなど家で使っていた好みのものを持ち込み、家族の写真がボードに納めてあり、洗面台には花が活けてあり、本人が居心地良く過ごせる居室の配慮をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーで、手摺りの位置など安全かつ個別の能力を生かして生活が送れるように工夫している。また個別の「できること」への評価を適切に行い、過剰支援とならないよう配慮している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム香雪

作成日：平成 26 年 2 月 28 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	・防災訓練への取り組みや回数が不足していると思われる。 ・実際の有事において、適切な行動が行えるかどうかが不透明である。	・職員全員が訓練の重要性を理解し、冷静に的確な対応を行える。 ・様々なパターンに対応が可能となる。	・防災マニュアルの定期的な見直しと周知。 ・年間訓練回数の見直し。 ・様々な状況を設定。対応力を強化。 ・近隣への協力体制のお願い、強化。	1年
2	35	同じようなヒヤリハットが続くことがあり、再発防止が十分に機能していると言い難い。	・同じことを繰り返さない。 ・再発防止機能の構築。	・原因究明とアセスメントの徹底。 ・危険な場所や行為の再確認。 ・職員育成。(危険察知力を高める)	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。